

『鷺尾がみた長崎①』

○中華街の前。

鷺尾、市内電車からおりる。

自転車、背後からチリンチリンと鳴らす。

鷺尾「あ、すみません」

鷺尾、川に沿って歩き出し、川を撮影する。

○橋の上

小川が流れている。

男女、やってくる。

女「ほら。眼鏡橋よ」

男「あ、雨が降り出してきた」

女「ええ」

男「…」

女「さっきから、寒気がする」

男「上着をかそう」

女「(上着をうけとって) ありがとう」

女「朝から吐き気がして、あまり体調がよくないの」

男「そういえば、最近、俺も腹の調子がわるくて…」

男「傘をさそう」

女、男から傘をうけとる。

鷺尾、男女の背後から現れる。

女「久しぶりね。こんな風に出てきたの」

男「ああ」

女「あの時は、随分歩いてきたものねえ」

男「…」

女「もっと遠くへいけるかしら」

男「もっと遠くへ？」

女「そう。この町から隔たった、遠い場所」

男「しかし、昏いね」

女「雲のせいね」

鷺尾、カメラで二人の写真を撮ろうとする。

女「(橋の下をみて) あ！」

男「どうしたんだ、急に？」

女「白鷺」

男「…」

女「沈んでいる」

男「ほんとうだ」